

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 やさしく かしく たくましく  
～豊かな自分づくりと共に生きる人間の育成～

目指す子どもの姿 人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして  
～問いを追究することを通して、学びのサイクルを確立させる～

変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力、判断力、表現力等 c学びに向かう力、人間性 d情報活用能力  
学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

三田市立ゆりのき台小学校  
学校長 松田 文貴  
研究主体【 研究推進 】

前年度			4月			2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める	①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める。 CとDについては、「日々の学びに基づくノート作り」については、授業のはじめにはみんなであてを共有し、授業の最後にはふり返りを書くなど継続して取り組めた。 研究テーマより、子どもたちが学習の中で問いを持ち、主体的に学べる授業作りを目指して取り組めた。 ◆子どもたちが主体的に学べる授業作りを目指して、さらに取り組みを続けていきたい。 ◆学年が上がるにつれ、読書時間が減る傾向にあるので、読書活動の推進を継続していく。	A	①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める (a知識及び技能) (b思考力、判断力、表現力等) (d情報活用能力) (e課題解決能力)	○学期末の算数や漢字のまとめのテストで9割以上の定着をめざす。 ○研究会アンケートにおいて学びの積み上げに対する肯定的な評価を得る。	A:漢字や計算の定着度を評価し適宜プリント等で補充する。 B:学期末定着度テスト(漢字・計算)を実施し目標到達ラインに届くまで放課後等に補充学習を行う。 C:学習の中にめあてを書いたり学びをふり返ったりするなど「見える化」する活動を位置づける。 D:日々の学びに基づくノート作りを継続する。 E:全校一斉読書タイムを継続する。 F:学校司書や図書ボランティアと連携して読書活動をすすめる。			
②コミュニケーション能力の育成を図る	○研究テーマに沿った授業作りを目指す中で、対話的な授業づくりについて共通理解が進んだ。 ○年間を通して、定期的に授業公開を行った。自主研修会を行ったことにより、教職員の授業力向上に務めることができた。 ◆対話的な授業作りにより日々取り組んできているが、更なる取り組みが必要である。	A	②コミュニケーション能力の育成を図る (gコミュニケーション能力)	○学校評価アンケート(職員)の教科学習「体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自ら学ぶ力や思考力を高める指導方法の工夫ができています」の項目で研究の成果を問い、肯定評価8割以上をめざす。 ○他校の先生より研究会アンケートにおいて「対話的」をキーワードに肯定的な評価をめざす。	A:研究テーマ「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして～問いを追究することを通して、学びのサイクルを確立させる～」に沿った授業づくりを行う。 B:学習の中に「異学年交流」や「地域の方々との交流」を取り入れ、身につけた力を活用する場の設定を行う。 C:授業を公開し合い、全職員で授業力向上に努める。 D:研究会で対話的な学習が効果的に作用している学習場面を公開する。			
③豊かな心の育成を図る	○プラン委員会が常時活動として行っている「あいさつ運動」の効果もあり、低学年を中心にあいさつに意識が向いてきた。 ◆学校評価アンケート(職員・保護者)や子どもアンケートの「子どもの育ち(やさしく)」の項目では、子どもは肯定的な評価である一方、職員・保護者は肯定的な評価が8割に満たなかった。特に「物を大切に使う」という項目で低かったため、日常的に学級指導を行ったり、委員会活動を通じて呼びかけていきたい。	C	③豊かな心の育成を図る (c学びに向かう力、人間性)	○学校評価アンケート(職員・保護者)や子どもアンケートの「子どもの育ち(やさしく)」の項目で肯定評価8割以上をめざす。 ○「物を大切に使う」という項目が低いので、学級指導等で8割以上を目指す。	A:「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 B:「あいさつ運動」を実施し、進んであいさつできる児童をめざす。 C:「ピーミーっ子の歌」の歌詞や学校教育目標をもとに、子どもたちがめざすピーミーっ子の姿を各学級・各学年で具現化し、学年目標とする。 D:学校外の教育力を活用し、多様な生き方・考え・表現にふれさせる場を設定する。 E:「生きる力」「こころはばたく」「心きらめく」「心ときめく」を活用して道徳・人権教育の充実を図る。			
④生活習慣の確立をめざす	○昨年度の学校評価アンケート(教職員、保護者)の結果より、校内で再度鉛筆の正しい持ち方を全学年で指導していくこと、掲示物を作成し、4月の学級開きの早い段階で指導することができた。掲示しておくことで、常に振り返り、指導することができた。 ◆子どもアンケートの「ものを大切に使う」の項目で、肯定的な評価が低かった。校内の落とし物も多く、そのまま引き取りがないままの物も多く、今後学級指導や委員会活動を通して、持ち物を大切にすることを高めていきたい。	B	④生活習慣の確立をめざす (c学びに向かう力、人間性)	○子どもアンケートで、正しい姿勢・持ち物への記名・後片付け・掃除ができていないかを確認する。	A:自立した生活(早寝・早起き、整理整頓、時間を守る、礼儀)ができる児童をめざす。 B:よい姿勢(話す・聞く姿勢、鉛筆の持ち方、靴の履き方)を身につける。 C:善悪の判断ができる子を育成する。 D:ゆりのきスタンダード掃除編(お掃除3つの約束)の徹底と、掃除を積極的にする子をめざす。 E:定期的にロッカーやボックスの整理整頓の声かけをし、片付けの習慣を身につける。			
⑤健やかな体づくりを図る	○子どもアンケートの「運動遊びに取り組んでいる」の項目は、肯定評価の割合が8割以上で高かった。今後も取組を継続していきたい。 ○学年に応じた食の教育を栄養教諭と連携を取りながら進めることができた。	A	⑤健やかな体づくりを図る (a知識及び技能) (b思考力、判断力、表現力等) (c学びに向かう力、人間性)	○子どもアンケートで、運動遊びができていないかを確認する。	A:外遊びの推奨とさまざまな遊びが体験できるよう環境整備・時間確保を行う。 B:栄養教諭と連携を取りながら食育を推進する。 C:体育授業の充実			
⑥学校・家庭・地域との連携と協働を図る	○学校評価アンケート(職員)からは、約9割の肯定評価が得られた。今後も引き続き、取組を進めるとともに、より一層地域との連携を深めていけるよう、各学年の年間カリキュラムに位置づけ、校内コーディネーターや学年コーディネーターを中心に計画的に取り組んでいきたい。	A	⑥学校・家庭・地域との連携と協働を図る (gコミュニケーション能力)	○学校評価アンケート(職員)学校運営「学校施設を地域の活動のために開放したり、ゲストティーチャーを活用する等、地域と児童が共に学ぶ環境づくりや授業づくりをしている」の項目で9割の肯定評価を維持する。	A:コミュニティスクールの推進を図るために、学校運営協議会を年間を通して計画的に開催し、学校評価の項目や結果を共有する。 B:「ゆりのき子どもネットワーク」との連携を図るために窓口となる校内コーディネーターをおき、ネットワーク会議に参加する。 C:児童に地域行事に参加する意義を伝え、積極的に参加するよう呼びかける。 D:学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う。 E:学校が「めざす子どもの姿」を学級集会や教育課程説明会などで提示し、家庭での協力を求める。			

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値  
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価  
A・・・十分に達成 B・・・おおよそ達成  
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず